

厚生労働大臣 様

開設者 公立大学法人福島県立医科大学
理事長 高地 英夫

公立大学法人福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成 18 年度の業務に関して報告します。
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	47.1 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	276人	134.3人	410.3人	看護業務補助	25人	診療エックス線技師	人
歯科医師	2人	6.4人	8.4人	理学療法士	4人	臨床検査技師	57人
薬剤師	27人	人	27.0人	作業療法士	人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	4人	その他	人
助産師	30人	人	30.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	425人	17.2人	572.2人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2.2人
准看護師	1人	人	1.0人	栄養士	人	その他の技術員	1.8人
歯科衛生士	1人	人	1.0人	歯科技工士	人	事務職員	64人
管理栄養士	6人	人	6.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	41.5人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	638.6 人	2.8 人	641.4 人
1日当たり平均外来患者数	1,641.4 人	24.6 人	1,666.0 人
1日当たり平均調剤数		797.7 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	/ 人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2 人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水泡症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	40 人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0 人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	/ 人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	8 人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	①有・無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	①有・無	/人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特異性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・①無	25人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・①無	9人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	⑦有・無	0人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	⑦有・無	16人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
強度変調放射線治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
人工中耳	有・無	人
歯周組織再生誘導法	有・無	人
抗がん剤感受性試験	有・⑦無	10人
腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
生体部分肺移植術	有・無	人
活性化血小板の検出	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
眼底三次元画像解析	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ 無	5人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	70人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	25人
・多発性硬化症	29人	・ウェゲナー肉芽腫症	17人
・重症筋無力症	52人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	46人
・全身性エリテマトーデス	158人	・多系統萎縮症	11人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	5人
・再生不良性貧血	36人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	55人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・原発性胆汁性肝硬変	45人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	86人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	62人	・特発性大腿骨頭壊死症	31人
・結節性動脈周囲炎	12人	・混合性結合組織病	24人
・潰瘍性大腸炎	82人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	19人	・特発性間質性肺炎	14人
・ビュルガー病	7人	・網膜色素変性症	14人
・天疱瘡	8人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	28人	・原発性肺高血圧症	3人
・クローン病	19人	・神経線維腫症	6人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	16人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	88人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	3人
・アミロイドーシス	8人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	3人
・後縦靭帯骨化症	46人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月4回程度実施している。	
剖検の状況	剖検症例数 53例	剖検率 20%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Angiotensin II負荷LDLレセプター欠損マウスに観察される高血圧・高脂血症ヘムオキシゲナーゼ産物一酸化炭素(CO)の役割	石川和信	第一内科	10万円	補委 高血圧と冠動脈疾患研究会
鉄調節ホルモン・ヘプシジンが動脈硬化の発症と進展に与える影響に関する研究	石川和信	第一内科	100万円	補委 財団法人持田記念医学薬学振興財団
虚血性心疾患と心不全の診断を目的として、超音波画像を用いた壁運動解析、造影法の評価を行う	高野真澄	第一内科	100万円	補委 東芝メディカルシステムズ株式会社
非ゲラニルゲラニル化低分子GTP結合蛋白質の動脈硬化における役割と動脈硬化予知に関する研究	大河原浩	第一内科	300万円	補委 万有生命科学振興国際交流財団
骨髄不全症候群症例における免疫機構の解明	池田和彦	第一内科	170万円	補委 文部科学省科学研究費
循環器研究委託費事業	丸山幸夫	第一内科	100万円	補委 国立循環器病センター
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平弘正	第二内科	500千円	補委 厚生労働科学研究費
難治性膵疾患に関する調査研究	入澤篤志	第二内科	300千円	補委 厚生労働科学研究費
GNSループスにおける抗トリオースリン酸イソメラーゼ(TPI)抗体の病原性の検討	渡辺浩志	第二内科	500千円	補委 文部科学省科学研究費
ベーチェット病に関する調査研究	小林浩子	第二内科	1,000千円	補委 厚生労働科学研究費
Toll-like receptorを介した自然免疫による炎症性長疾患の制御	片倉響子	第二内科	2,400千円	補委 文部科学省科学研究費
				小計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
超音波内視鏡による慢性膵炎の早期診断と内視鏡的治療—早期慢性膵炎の診断指針と治療の確立に向けて—	高木忠之	第二内科	500千円	補委 財団法人福島県医学振興会医学研究助成
急激な加糖変化に伴う糖尿病性腎症の進展機序	小野崎彰	第三内科	1,500千円	補委 日本学術振興会科学研究費
アディポネクチン糖尿病性腎症に対する影響とその作用機序についての研究	佐藤博亮	第三内科	2,900千円	補委 日本学術振興会科学研究費
食塩感受性高血圧の遺伝子指標としてのG蛋白質共役型受容体キナーゼ4(GRK4)遺伝子多型の意義	眞田寛啓	第三内科	1,600千円	補委 財団法人ソルト・サイエンス研究財団
食塩感受性高血圧患者における利尿薬併用療法の有用性に関する検討	眞田寛啓	第三内科	1,500千円	補委 財団法人福島県医学振興会
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験(JDOI3)	渡辺 毅	第三内科	3,000千円	補委 厚生労働省科学研究費
福島県の特産物のひとつであるヤーコンのメタボリック・シンドロームに及ぼす影響についての基礎的研究	佐藤博亮	第三内科	700千円	補委 プロジェクト研究
2型糖尿病をはじめとする生活習慣病における新しい代替療法の確立—ヤーコンにおける改善効果とその作用機序の解明—	渡辺 毅	第三内科	5,017千円	補委 福島県知事
ポリオ根絶重要国におけるAFPサーベイランス	遠藤一博	神経内科	1,500千円	補委 国際医療協力研究委託費
スモンに関する調査研究	遠藤一博	神経内科	600千円	補委 厚生労働科学研究費補助金
アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療法の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究	棟方 充	呼吸器内科	800千円	補委 厚生労働省科学研究費

小計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
びまん性肺疾患に関する調査研究	棟方 充	呼吸器内科	400千円	補 委 厚生労働省科学研究費
特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究	棟方 充	呼吸器内科	1,000千円	補 委 厚生労働省科学研究費
公害健康被害予防事業に係る調査研究事業	棟方 充	呼吸器内科	1,200千円	補 委 環境再生保全機構
メチル化の制御によるフッ化ピリミジン系抗癌剤代謝関連酵素遺伝子の発現調節	寺島雅典	第一外科	1,300千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
食道における組織修復機転を利用した異型細胞の制御と制癌効果への応用	木暮道彦	第一外科	1,500千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
肝線維化機序の解明とその制御～骨髄由来細胞の関与～	土屋貴男	第一外科	1,800千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
エネルギーチャージ測定による組織機能評価法を用いた保存臓からの新たな膵島分離法の開発	斎藤拓朗	第一外科	1,600千円	補 委 文部科学省科学研究費
胆管癌における癌部、周囲異型細胞の分子生物学的解析	木村隆	第一外科	2,600千円	補 委 文部科学省科学研究費
膵島移植の臨床応用	後藤満一	第一外科	1,150千円	補 委 福島県医学振興会
脳神経外科手術におけるヒヤリ・ハット事例、事故事例、訴訟事例の分析による手術治療安全対策ガイドライン作成に関する研究	児玉南海雄	脳神経外科	500千円	補 委 厚生労働省
プリオン病の画期的治療法に関する臨床研究と基礎研究	児玉南海雄	脳神経外科	500千円	補 委 厚生労働省

小計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳表組織への高頻度単極電気刺激の安全性の検討	生沼 雅博	脳神経外科	500千円	補 委 文部科学省
下小脳脚障害の探知に関する実験的検討	児玉南海雄 村松 広行	脳神経外科	500千円	補 委 文部科学省
高齢者の腰痛症に係る効果的な診断・治療・リハビリテーション等の確立	菊地臣一	整形外科	2,000千円	補 委 厚生労働科学研究費補助金
日本人における頸部愁訴、および運動器症状の個人あるいは社会に与えるインパクトに関する調査	菊地臣一	整形外科	2,600千円	補 委 日本整形外科学会プロジェクト研究費
地域支援事業における体力向上サービスのあり方に関する研究	菊地臣一	整形外科	0千円	補 委 厚生労働科学研究費補助金
心臓3次元運動解析による心拍動下手術野制御法の開発	横山 斉	心臓血管外科	700千円	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
胸部大動脈疾患におけるステントグラフトの臨床応用	高瀬信弥	心臓血管外科	1500千円	補 委 平成18年度特定助成事業助成金(医学振興会)
社会学・心理学等との連携による国民のリテラシー向上と患者の納得形成に関する研究	佐藤 章	産科婦人科	2,000千円	補 委 厚生労働省
超少子化時代のわが国における新たな不妊症原因の究明と社会に即した治療システムの開発	佐藤 章	産科婦人科	4,000千円	補 委 厚生労働省
母体細胞性免疫破綻とiNOSによる早産発症機構への子宮内プログラミング関与の検討	高橋秀憲	産婦人科	2,100千円	補 委 文部科学省

小計 10

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胎児高サイトカイン血症における子宮内プログラミングによる高血圧発症の研究	大川敏昭	総合周産期母子医療センター	1,500千円	補 委	文部科学省
急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解析から新たな治療法確立に向けた研究	細矢 光亮	小児科	800千円	補 委	厚生労働省科学研究費
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	細矢 光亮	小児科	3,500千円	補 委	厚生労働省科学研究費
小児における急性脳炎・脳症の病態・診断・治療に関する研究	細矢 光亮	小児科	1,500千円	補 委	文部科学省科学研究費
インフルエンザ脳症の病態モデルの作成と、その増悪及び改善因子の検討	細矢 光亮	小児科	1,200千円	補 委	文部科学省科学研究費
腎糸球体の再生過程における糸球体内皮細胞の役割に関する検討	川崎 幸彦	小児科	1,100千円	補 委	文部科学省科学研究費
脈絡膜新生血管におけるチミジンホスホリラーゼの発現とその阻害剤による治療	飯田知弘	眼科	2,200千円	補 委	文部科学省
全身麻酔薬の向精神作用に関する神経化学的研究	村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	1,500千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
輸血用血液の細菌感染防止と血小板製剤の有効性期限延長に関する研究	大戸 斉	輸血・移植免疫部	3,000千円	補 委	厚生労働省科学研究費
C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	大戸 斉	輸血・移植免疫部	14,000千円	補 委	厚生労働省科学研究費

小計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
プロテオミクスを用いた抗癌細胞自己抗体の検出と同定	今福裕司	臨床検査医学	1,100千円	補 委 文部科学省科学研究費
組織工学的手法を用いた気道再生の基礎的・臨床的研究	大森孝一	耳鼻咽喉科	12,822千円	補 委 厚生労働省科学研究費
先天性サイトメガロウイルス感染症による聴覚障害の実態調査並びに発症予防を目指した基礎的研究	大森孝一	耳鼻咽喉科	16,625千円	補 委 厚生労働省科学研究費
頭頸部管腔臓器再生における血管新生と組織修復機構の解明	大森孝一	耳鼻咽喉科	5,800千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
内耳性難聴に対する細胞移植と人工内耳の併用治療に関する基礎的研究	大森孝一	耳鼻咽喉科	1,300千円	補 委 文部科学省科学研究費
気管再生における移植細胞のはたす役割の解明	多田靖宏	耳鼻咽喉科	2,100千円	補 委 文部科学省科学研究費
脱神経性萎縮防止に関する実験的研究・流入型端側神経縫合の検討	上田和毅	形成外科	700千円	補 委 文部科学省科学研究費
TGF-βシグナルを制御するユビキチンリガーゼの異常と癌のメカニズムに関する研究	竹之下誠一	第2外科	2,000千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
チミジンホスホリラーゼを標的としたクローン病治療体系の確立	竹林勇二	第2外科	800千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
画像解析ネットワークを利用した地域全体の乳癌治療方針の画一化に関する研究	渡辺久美子	第2外科	1,200千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
プロテオグリカンを用いた腫瘍マーカーおよび、血行転移阻害剤開発のための基礎研究	竹之下誠一	第2外科	1,700千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
ハイブリック計測による卵子・培養組織のバイオクオリティ評価システムの開発	竹之下誠一	第2外科	4,971千円	補 委 都市エリア産学官連携事業

小計 12

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
MEMSによるハプティック(触覚)型超音波診断システムの開発	竹之下誠一	第2外科	2,195千円	③補委 地域新生コンソーシウム研究開発事業
マイクロカテーテルシステムを用いたコンピューター制御下のドラックデリバリーシステムの確立	竹之下誠一	第2外科	7,200千円	③補委 うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト助成金
女性骨盤底機能障害の解剖学的および機能的研究	嘉村康邦	泌尿器科学講座	50千円	③補委 日本学術振興会科学研究費
閉塞膀胱の機能低下とアンジオテンシンⅡレセプターとの関与及びブロックの予防効果	相川 健	泌尿器科学講座	120千円	③補委 日本学術振興会科学研究費
腎癌の浸潤、増殖におけるHMGB1およびRAGEの関与についての検討	榎田信博	泌尿器科学講座	140千円	③補委 日本学術振興会科学研究費
ラット膀胱虚血モデルでのβアドレノレセプターを介した膀胱弛緩における検討	野宮正範	泌尿器科学講座	90千円	③補委 日本学術振興会科学研究費

小計 6

合計 71

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia, 20 (4), 627-634, 2006 (平成18年4月)	Leukemia, 20 (4), 627-634, 2006	岡本正俊	第一内科
International Journal of Hematology, 83 (4), 337-340, 2006 (平成18年5月)	Recurrent extramedullary relapse of acute promyelocytic leukemia after allogeneic stem cell transplantation: successful treatment by arsenic trioxide in combination with local radiotherapy	甲斐龍幸	第一内科
Haematologica, 91 (6), 856-857, 2006 (平成18年6月)	The frequency of HLA class I alleles in Japanese patients with bone marrow failure	七島 勉	第一内科
Cardiovascular Research, 71 (3), 537-547, 2006 (平成18年8月)	Attenuated cardioprotection by ischemic preconditioning in coronary stenosed heart and its restoration by carvedilol	渡部研一	第一内科
Molecular and Cellular Biochemistry, 291 (1-2), 21-28, 2006 (平成18年10月)	Carbon monoxide and bilirubin from heme oxygenase-1 suppresses reactive oxygen species generation and plasminogen activator inhibitor-1 induction	松本勇人	第一内科
Coronary Artery Disease, 17 (7), 629- 635, 2006 (平成18年11月)	Differing effects of metoprolol and propranolol on large vessel and microvessel responsiveness in a porcine model of coronary spasm	武藤 満	第一内科
Fukushima Journal of Medical Science, 52 (2), 87-102, 2006 (平成18年12月)	Estimation of microinhomogeneity of conduction impairment by wavelet analysis during early phase of myocardial ischemia in pigs	古川哲夫	第一内科
Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology, 26 (12), 2614-2621, (平成18年12月)	Hydrogen peroxide: a feed-forward dilator that couples myocardial metabolism to coronary blood flow	斎藤修一	第一内科
Circulation Journal, 71 (3), 390-396, 2007 (平成19年3月)	Comprehensive analyses of arrhythmogenic substrates and vulnerability to ventricular tachycardia in left ventricular hypertrophy in salt-sensitive hypertensive rats	亀井賢一	第一内科
Journal of Cardiology, 49 (3), 109-114, 2007 (平成19年3月)	Correlation between exercise electrocardiography test and coronary flow reserve in patients without organic coronary artery stenosis	三次 実	第一内科
Fukushima J Med Sci, 52(1), 13-19, 2006 (平成 年 月)	A case of hepatic angiosarcoma supplied by both hepatic artery and portal vein.	星 奈美子	第二内科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Fukushima J Med Sci, 52(2), 71-77, 2006. (平成 年 月)	Clinicolaboratory characteristics of japanese patients with primary biliary cirrhosis-autoimmune hepatitis overlap.	齋藤広信	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 79-85, 2006. (平成 年 月)	Possible association of cytotoxic t lymphocyte antigen-4 genetic polymorphism with liver damage of primary biliary cirrhosis in japan.	菅野有紀子	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 103-109, 2006. (平成 年 月)	Usefulness of complement split product, Bb, as a clinical marker for disease activity of lupus nephritis.	渡辺浩志	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 135-142, 2006. (平成 年 月)	Case of an elderly man with associated henocho-schonlein purpura during treatment of acute pancreatitis.	佐藤秀三	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 149-155, 2006. (平成 年 月)	A case of rapidly expanding and increasing focal nodular hyperplasia.	佐藤 愛	第二内科
International Journal of Molecular Medicine, 18, 273-279, 2006. (平成 年 月)	Expression of TNF- α , tristetraprolin, T-cell intracellular antigen-1 and Hu antigen R genes in synovium of patients with rheumatoid arthritis.	鈴木英二	第二内科
International Journal of Molecular Medicine, 17, 801-806, 2006. (平成 年 月)	Gene transduction of tristetraprolin or its active domain reduces TNF- α production by Jurkat T cells.	鈴木英二	第二内科
The Internet Journal of Radiology. 5(1), 2006. (平成 年 月)	"Angel Halo Esophageal Varix" on endoscopic varicealography in patient with extrahepatic portal vein obstruction.	今村秀道	第二内科
Intern Med. 45(10), 1059-1063, 2006. (平成 年 月)	CD8-positive T cell-induced liver damage was found in a patient with polymyositis.	高橋敦史	第二内科
Intern Med. 45(12), 1217-1220, 2006. (平成 年 月)	A recovery case of acute-onset autoimmune hepatitis presented as fulminant hepatic failure, who received living donor-liver transplantation.	高橋敦史	第二内科
J Neuroimmunol, 181(1-2), 150-156, 2006. (平成 年 月)	Anti-triosephosphate isomerase antibodies in cerebrospinal fluid are associated with neuropsychiatric lupus.	佐々島朋美	第二内科

小計 11

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol, 16(2), 92-96, 2006. (平成 年 月)	A case of idiopathic portal hypertension associated with rheumatoid arthritis.	佐々島朋美	第二内科
Mod Rheumatol, 16(2), 109-112, 2006. (平成 年 月)	A case of systemic lupus erythematosus complicated by pure red cell aplasia and idiopathic portal hypertension after thymectomy.	岩館治代	第二内科
Mod Rheumatol, 16, 220-225, 2006 (平成 年 月)	Doppler sonographic comparative study on usefulness of synovial vascularity between knee and metacarpophalangeal joints for evaluation of articular inflammation in patients with rheumatoid arthritis treated by infliximab.	塩 季織	第二内科
World J Gastroenterol, 12(13), 2136-2138, 2006. (平成 年 月)	A case of primary biliary cirrhosis complicated by Behcet's disease and palmoplantar pustulosis.	岩館治代	第二内科
肝臓, 47(1), 5-9, 2006. (平成 年 月)	自己免疫性肝炎の経過中に抗セントロメア抗体が陽性化し、Raynaud現象が出現した1例.	高橋敦史	第二内科
日本消化器病学会雑誌, 103(10), 1146-1151, 2006. (平成 年 月)	経鼻持続陽圧気道圧法を併用し胸膜癒着術が奏効した難治性肝性胸水の2例.	斉藤理恵	第二内科
福島医学雑誌, 56(4), 247-252, 2006. (平成 年 月)	微量腹水に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診にて癌性腹膜炎と診断された肺癌の一例.	若槻 尊	第二内科
福島医学雑誌, 56(4), 285, 2006. (平成 年 月)	門脈圧亢進症患者における胆管静脈瘤のIDUSを用いた解剖学的考察.	高木忠之	第二内科
リウマチ科, 36(1), 103-107, 2006. (平成 年 月)	ホスファチジルセリン依存性抗プロロンピン抗体が検出された脳梗塞発症Klinefelter症候群合併全身性エリテマトーデスの一例.	本間史子	第二内科
肝・胆・膵, 53(4), 505-511, 2006. (平成 年 月)	EUS所見は慢性膵炎の診断に結びつか.	入澤篤志	第二内科
消化器内視鏡, 18(5), 878-882, 2006. (平成 年 月)	膵嚢胞ドレナージ術.	入澤篤志	第二内科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本門脈圧亢進症学会誌, 12(2), 146-150, 2006. (平成 年 月)	胃静脈瘤出血例に対する内視鏡的硬化療法(EIS).	高木忠之	第二内科
Medicina, 43(8), 1350-1352, 2006. (平成 年 月)	超音波内視鏡(EUS)ガイド下治療EUSガイド下穿刺注入 腹腔神経叢ブロック・抗腫瘍療法.	入澤篤志	第二内科
Molecular Therapy, 13(1), 118~126, 2006. (平成2006年 月)	Adenovirus-Mediated Gene Transfer and Lipoprotein-Mediated protein Delivery of Plasma PAF-AH Ameliprates Proteinuria in Rat Model of Glomerulosclerosis.	渡辺 毅	第三内科
Hypertension, 47, 1131~1139,2006. (平成2006年 月)	Amelioration of Genetic Hypertension by Suppression of Renal G Protein-Coupled Receptor Kinase Type 4 Expression.	眞田寛啓	第三内科
Clin. Chem., 52(3), 352~360, 2006. (平成2006年 月)	Diagnosis of Salt Sensitive Hypertension Using Single Nucleotide Polymorphisms.	眞田寛啓	第三内科
神経内科 (平成19年 月)	神経Sweet病の病態.	遠藤一博	神経内科
Journal of Neuroscience Research (平成19年 月)	Possible Role of Astrocytic Glutamine Synthetase Buffering Glutamate-Mediated Neurotoxicity.	星 明彦	神経内科
Intern Med (平成19年 月)	Thymidine Phosphorylase Gene Mutation is not a Primary Cause of Mitochondrial Neurogastrointestinal Encephalomyopathy (MNGIE).	熊谷ユキ絵	神経内科
神経内科 (平成19年 月)	特集 筋硬直, 筋痙攣と周辺疾患, 里吉病.	遠藤一博	神経内科
Neurotrauma Research (平成19年 月)	Possible role of astrocytic glutamine synthetase buffering glutamate-mediated neurotoxicity in chemical preconditioning.	星 明彦	神経内科
日本内科学会雑誌 (平成19年 月)	今月の症例. 睡眠剤中止後に非痙攣性てんかん重積状態を呈した1例.	松田 希	神経内科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床神経学 (平成19年 月)	塩酸テクロピジン関連血栓性血小板減少性紫斑病の1例～頭部MRI拡散強調画像の検討～	松田 希	神経内科
Allergology International (平成18年 月)	Molecular-based haplotype analysis of the β 2-adrenergic receptor gene (ADRB2) in Japanese asthmatic and non-asthmatic subjects	棟方 充	呼吸器内科
今日の治療方針2006 (平成18年 月)	慢性咳嗽	棟方 充	呼吸器内科
Chest (平成18年 月)	A Virtual Bronchoscopic Navigation System for Pulmonary Peripheral Lesions.	石田 卓	呼吸器内科
Journal of Thoracic Oncology (平成18年 月)	Phase II Study of Carboplatin Combined with Biweekly Docetaxel for Advanced Non-small Cell Lung Cancer	石田 卓	呼吸器内科
Eur Respir (平成18年 月)	Genetic linkage analysis of pulmonary fibrotic response to silica in mice.	斎藤 純平	呼吸器内科
Journal of Asthma (平成18年 月)	Polymorphism of <i>egfr</i> intron1 is associated with susceptibility and severity of asthma	斎藤 純平	呼吸器内科
Cancer Lett 237(2):242-7,2006. (平成 年 月)	Prognostic impact of p53 protein overexpression in patients with node-negative lung adenocarcinoma.	Suzuki H	第一外科
Clin Cancer Res 12(11 Pt 1):3402-7,2006. (平成 年 月)	Phase II study of docetaxel and S-1 combination therapy for advanced or recurrent gastric cancer.	Yoshida K	第一外科
Genomics 88(3):316-22, 2006. (平成 年 月)	Molecular cloning and characterization of novel splicing variants of human decay-accelerating factor.	Osuka F	第一外科
Gastric Cancer 9(4):308-14, 2006. (平成 年 月)	Detection of cancer cells disseminated in bone marrow using real-time quantitative RT-PCR of CEA, CK19, and CK20 mRNA in patients with gastric cancer.	Fujita Y	第一外科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Cancer Res 12(21):6367-72,2006. (平成 年 月)	Identification of the decay-accelerating factor CD55 as a peanut agglutinin-binding protein and its alteration in non-small cell lung cancers.	Higuchi M	第一外科
日本呼吸器外科学会 雑誌 20(6):819-823,2006. (平成 年 月)	術前FDG-PETで集積を認めた胸腺カルチノイドの1例	樋口光徳	第一外科
日本消化器外科学会 雑誌 39(8):1374-1379,2006. (平成 年 月)	リンパ節転移を認めた小さな胃カルチノイド腫瘍の1例□ 術中センチネルリンパ節生検の有用性について□	添田暢俊	第一外科
癌と化学療法 33(12): 1713-1716,2006. (平成 年 月)	Tissue Array法を用いた肺癌組織におけるHLAクラス I 抗原とHLA-G抗原の発現異常に関する検討	鈴木弘行	第一外科
Neurosurgery (平成19年 1月)	High frequency monopolar electrical stimulation of the rat cerebral cortex	OINUMA Masahiro	脳神経外科
American Journal of Neuroradiology (平成19年 2月)	Dynamic 3D-CT Angiography	MATSUMOTO Masato	脳神経外科
臨床脳波 (平成18年 6月)	脳動脈瘤手術におけるMEPを用いた脳虚血の探知法	佐久間 潤	脳神経外科
小児の脳神経 (平成18年6月)	低出生体重児の出血後水頭症に対する静脈留置カテーテルを用いた脳室ドレナージの経験	佐久間 潤	脳神経外科
Innervision (平成18年10月)	3D-CTAとDynamic 3D-GTA (d3D-GTA)の臨床的有用性	松本正人	脳神経外科
日本臨床 (平成18年11月)	未破裂脳動脈瘤の診断	松本正人	脳神経外科
日本臨床 (平成18年11月)	脳血管攣縮に対する薬物療法	佐々木達也	脳神経外科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脳卒中 (平成18年12月)	3D-CTA	松本正人	脳神経外科
Spine31(8):869-872, 2006 (平成 年 月)	Effects on improvement of blood flow in the chronically compressed cauda equina	関口美穂	整形外科
Journal of Neurosurgery5: 26-32,2006 (平成 年 月)	Mid-term and long-term follow-up data after placement of the graf stabilization system for lumbar degenerative disorders	恩田 啓	整形外科
Spine31(5):523-529, 2006 (平成 年 月)	TNF- α and phosphorylation of ERK in DRG and spinal cord Insight into mechanisms of sciatica	高橋直人	整形外科
Spine31(8):931-939, 2006 (平成 年 月)	Discrepancy between disability and the severity of low back pain: Demographic,psychologic,and employment-related factors	高橋直人	整形外科
Spine32(2):E73-E78, 2007 (平成 年 月)	Effects of the mechanical load on forward bending motion of the trunk Comparison between patients with motion-induced intermittent low back pain and healthy subjects	高橋一期	整形外科
American Journal of Medical Genetics A:143A:884-887, 2007 (平成 年 月)	Clinical report Spinal extradural arachnoid cysts associated with distichiasis and lymphedema	矢吹省司	整形外科
Jornal of Orthopaedic Science12(2): 154-160, 2007 (平成 年 月)	Correlation between inflammatory cytokines released from the lumbar facet joint tissue and symptoms in degenerative lumbar spinal disorders	五十嵐 章	整形外科
静脈学第17巻第4号別冊 (平成18年9月)	福島県における静脈血栓塞栓症の診断・治療および予防の現況	佐戸川弘之	心臓血管外科
The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery Volume132 (平成18年9月)	Three-dimensional quantification of cardiac surface motion:A newly developed three-dimensional digital motion-capture and reconstruction system for beating heart surgery	Toshiki Watanabe(渡邊俊樹)	心臓血管外科
福島県IVR研究会雑誌、第11巻第1号 (平成19年1月)	当院における胸部大動脈疾患に対するステントグラフト治療成績	高瀬信弥	心臓血管外科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脈管学、第47巻、No1 (平成19年2月)	静脈血栓塞栓症に対する診断と治療経験	佐戸川弘之	心臓血管外科
福島医学雑誌、第57巻 第1号 (平成19年3月)	2005年福島県心臓胸部大血管手術統計報告	佐藤洋一	心臓血管外科
福島医学雑誌、第57巻 第1号 (平成19年3月)	急性A型大動脈解離症例に対する診断と治療の現況	佐藤洋一	心臓血管外科
日本コンピュータ外科 学会会誌 第8巻第4号 (平成19年3月)	心表面冠動脈運動の定量的解析～拍動下心臓手術のための心表面運動三次元デジタル解析システムの開発～ Three-Dimensional Quantification of Cardiac Surface Motion; A Newly Developed 3-Dimensional Digital Motion-Capture and Reconstruction System for Beating Heart Surgery	渡邊俊樹	心臓血管外科
HORMON FRONTIER IN GYNECOLOGY (平成18年4月)	COSにおけるGnRH long protocolの有用性に関する検討	片寄治男	産科婦人科
Reproductive Medicine and Biology (平成18年5月)	Role of mammalian sperm nuclear structure in fertilization and embryo development	片寄治男	産科婦人科
PNAS (平成18年6月)	Simultaneous removal of sperm plasma membrane and acrosome before intracytoplasmic sperm injection improves oocyte activation/embryonic development	両角和人	産科婦人科
J.Obstet.Gynaecol.Res. (平成 年 月)	Sporadic fetal heart rate decelerations associated with electrocortical changes in fetal lambs	藤森敬也	総合周産期母子医療センター
Arch. Dis. Child. (平成18年 6月)	Prognostic predictive values of serum cytochrome c, cytokines, and other laboratory measurements in acute encephalopathy with multiple organ failure	細矢 光亮	小児科
Pediatr. Int. Dis. J. (平成18年 8月)	Genetic diversity of enterovirus 71 associated with hand, foot and mouth disease epidemics in Japan from 1983 to 2003	細矢 光亮	小児科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Bone Marrow Transplant (平成18年10月)	Nonmyeloablative stem cell transplantation for nonmalignant disease in children with severe organ dysfunction	菊田 敦	小児科
J. Am. Soc. Nephrol. (平成18年10月)	Renal effects of Coxsackie B4 virus in hyper-IgA mice	川崎 幸彦	小児科
Pediatr. Nephrol. (平成18年11月)	Efficacy of tonsillectomy plus therapy versus multiple-drug therapy for IgA nephropathy	川崎 幸彦	小児科
Am J Ophthalmol (平成 19年 1月)	Clinical characteristics of Exudative Age-related macular Degeneration in Japanese Patients	丸子一朗	眼科
Retina (平成 19年 2月)	Long-term observation of fundus infrared fluorescence after indocyanine green-assisted vitrectomy	石龍鉄樹	眼科
Am J Ophthalmol (平成 18年12月)	Correlation Between ocular Motility and Evaluation of Computed Tomography in Orbital Blowout Fracture	吉田 実	眼科
Eye (平成 18年12月)	Sodium hyaluronate eye drops prevent late-onset bleb leakage after trabeculectomy with mitomycin C	佐柄英人	眼科
Eur J Ophthalmol (平成 18年 9月)	Bilateral primary choroidal melanoma treated with bilateral plaque radiotherapy: A report of three cases	吉田 実	眼科
Ophthalmic Surgery Lasers & Imaging (平成 18年 6月)	A Surgical Technique to Protect the Macular Hole in Indocyanine Green-Assisted Vitrectomy	齋藤昌晃	眼科
Am J Ophthalmol (平成 18年 5月)	Indocyanine Green Angiography Abnormality of the Periphery in Vitelliform Macular Dystrophy	丸子一朗	眼科
J Invest Dermatol. 2006;126:90-8 (平成18年7月)	Role of IL-12B promoter polymorphism in Adamantiades-Behcet's disease susceptibility: An involvement of Th1 immunoreactivity against Streptococcus Sangiunis antigen.	Yanagihori H	皮膚科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Dermatol Sci. 2006;43:201-5. (平成18年9月)	Single nucleotide polymorphisms of Ficolin 2 gene in Behcet's disease.	Chen X	皮膚科
J Dermatol Sci. 2006;44:93-9. (平成18年11月)	Macrophage-derived chemokine(MDC)/CCL22 produced by monocyte derived dendritic cells reflects the disease activity in patients with atopic dermatitis.	Hashimoto S	皮膚科
J Invest Dermatol. 2006;126:787-96. (平成18年4月)	Behavioral responses of epidermal Langerhans cells in situ to local pathological stimuli.	Nishibu A	皮膚科
J Dermatol Sci. 2007;45:23-30 (平成19年1月)	Roles for IL-1 and TNFalpha in dynamic behavioral responses of Langerhans cells to topical hapten application.	Nishibu A	皮膚科
J Anesth (平成18年 月)	Perioperative respiratory complications caused by cystic lung malformation in Proteus syndrome	Masaki Nakane	集中治療部
緩和医療学 (平成18年 月)	がん終末期患者の「望ましい死」に関する意識調査—福島市民と医師の比較—	出羽 明子	麻酔・疼痛緩和科
日本ペインクリニック学会誌 (平成18年 月)	骨セメント局注療法が著効した転移性腫骨・脛骨腫瘍による癌性疼痛の1症例	林 志保	麻酔・疼痛緩和科
日本頭頸部癌学会誌 (平成18年 10月)	口腔癌に対する多剤併用動注化学療法	長谷川博	歯科口腔外科
日本頭頸部癌学会誌 *平成18年 11月	高齢者に対する多剤併用動注化学療法	長谷川博	歯科口腔外科
医学検査 (平成18年 6月)	PCR-Luminex法によるHLA遺伝子タイピングの有用性	齋藤勝治	輸血・移植免疫部
日本気管食道科学会 会報 (平成18年 4月)	喉頭・気管狭窄の再生治療.	大森孝一, 他	耳鼻咽喉科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
分子呼吸器病 (平成18年 5月)	気道の再生と臨床応用.	大森孝一, 他	耳鼻咽喉科
Ann Otol Rhinol Laryngol (平成18年 7月)	Tissue engineering for regeneration of the tracheal epithelium.	Yukio Nomoto, et al.	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 ③喉頭・咽頭疾患 (平成18年 8月)	低侵襲で機能的な内視鏡下の喉頭手術.	大森孝一	耳鼻咽喉科
Tissue Eng (平成18年 9月)	Effect of fibroblasts on tracheal epithelial regeneration in vitro.	Ken Kobayashi, et al.	耳鼻咽喉科
Laryngoscope (平成18年10月)	Age-dependent degeneration of the stria vascularis in human cochleae.	Teruhisa Suzuki, et al.	耳鼻咽喉科
Laryngoscope (平成18年11月)	Congenital cytomegalovirus infection diagnosed by polymerase chain reaction with the use of preserved umbilical cord in sensorineural hearing loss children.	Hiroshi Ogawa, et al.	耳鼻咽喉科
再生医療 (平成18年11月)	甲状腺癌治療における気道の再生医療.	大森孝一, 他	耳鼻咽喉科
エントーニー (平成19年 2月)	甲状軟骨形成術 I 型のコツ.	多田靖宏, 大森孝一	耳鼻咽喉科
The Journal of Infectious Diseases (平成19年 3月)	Etiology of severe sensorineural hearing loss in children: Independent impact of congenital cytomegalovirus infection and GJB2 mutations.	Hiroshi Ogawa, et al.	耳鼻咽喉科
日本臨床細胞学会雑誌 (平成 年 月)	肺類基底細胞癌 (basaloid arcinoma) の 1 例	渡邊 一男	病理部
Histopathology (平成 年 月)	Uterine leiomyoma versus leiomyosarcoma: a new attempt at differential diagnosis based on their cellular characteristics	Kazuo Watanabe	病理部

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Respir Crit Care Med 2007 Feb 1 ;175(3) 263-8 (平成19年 2月)	Mutations in the SLC34A2 gene are associated with pulmonary alveolar microlithiasis	Takenoshita S Takebayashi Y	第2外科
J Exp Clin Res 2006 Sep;25 (3):433-42 (平成18年 9月)	Expression and mutation of SMAD4 in poorly differentiated carcinoma and signet-ring cell carcinoma of the colorectum	Takenoshita S	第2外科
Gan to Kagaku Ryouhou 2006 Jul;33(9):1253-6 (平成18年 7月)	Long-term results of chemoradiation therapy for the patients with locally advanced(T4) esophageal cancer	Takenoshita S Suzuki S Kumamoto K	第2外科
Gab to Kagaku Ryouhou 2006 Jul ;33(7):1001-4 (平成18年 7月)	A case of malignant peritoneal mesothelioma successfully treated with carboplatin and paclitaxel	Takebayashi Y Higashimoto M	第2外科
Tumori 2006 May-Jun;92(3):252-6 (平成18年 5月)	Colon carcinoma metastasis to the thyroid gland : report of a case with a review of the literature	Takenoshita S Suzuki S Kumamoto K	第2外科
Intern Med 2006 ;45(7):443-6 (平成 18年 5月)	Thymidine phosphorylase gene mutation is not a primary cause of mitochondrial neurogastrointestinal encephalomyopathy	Takenoshita S Takebayashi Y	第2外科
The Journal of Urology, 175(4): 55, 2006. (平成18年5月)	The stimulation factor for release oand the functional action of non-neuronal acetylcholine in rat bladder.	Watanabe Kazuhiro	泌尿器科
Neurourology Urodynamics, 25(6): 652,2006. (平成18年11月)	Mutation of β 3-Adrenoceptor gene: A genetic Marker for overactivate bladder.	Honda Kazuya	泌尿器科
Neurourology Urodynamics, 25(6): 529,2006. (平成18年11月)	Passive response of the plevic floor to the increase of the intraabdominal pressure during a valsalva.	Shishido Keiichi	泌尿器科

小計 9

合計129

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 藤地 臣一
管理担当者氏名	病院経営グループ 理事 小野 俊大、医事グループ 参事 瀬子 正明

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		医療情報部	一患者一ファイルに整理し、医療情報にて一括整理している。また、その他の診療に関する諸記録は患者個人フォルダ等に収納し、医療情報にて一括保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院経営グループ	業務毎に簿冊に綴じて分類している。
	高度の医療の提供の実績	〃	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	〃	
	高度の医療の研修の実績	〃	
	閲覧実績	〃	
	紹介患者に対する医療提供の実績	〃	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	〃	
確規 保則 の第 状9 況条 の 2 3 及び 第 1 1 条各 号に 掲 げる 体 制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	〃
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	〃	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	〃	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 病院経営グループ 医事グループ	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	〃	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	〃	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	〃		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 南地 臣一
閲覧担当者氏名	病院経営グループ 総務 小野 俊大
閲覧の求めに応じる場所	病院棟3階 病院経営グループ内

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	〇件
閲覧者別	医師	延	〇件
	歯科医師	延	〇件
	国	延	〇件
	地方公共団体	延	〇件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	55.4 %	算定期間	平成18年6月1日～平成19年3月31日
算出根拠 A: 紹介患者の数			8,671 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			7,629 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,416 人
D: 初診の患者の数			24,803 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13 - 2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<p>・ 所属職員： 専任 (7) 名 (医師 1 名、看護師 4 名 事務職 2 名) 兼任 (6) 名 (医師 2 名 薬剤技師 1 名 検査技師 2 名 事務職 1 名)</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全推進 院内において発生した医療事故及びインシデント情報の分析と事故防止策の実践 医療安全のための研修 院内感染対策 医事紛争処理 褥瘡対策</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容： 病院内の医療安全管理に関しては、「医療事故防止対策委員会設置要綱」(平成 18 年 4 月 1 日制定、平成 19 年 4 月 1 日最終改訂)及び「医療事故防止マニュアル」(平成 12 年 11 月 17 日制定、平成 16 年 5 月 12 日改訂、平成 19 年 7 月 11 日最終改訂)のほか、「医療安全管理指針」(平成 14 年 11 月 13 日策定、平成 19 年 7 月 11 日最終改訂)を医療事故防止対策委員会で決定している。 また、平成 16 年 11 月 12 日に「医療事故防止マニュアル」を全員に配布し、同月 30 日に内容周知のための説明会を開催した。 なお、医療事故防止マニュアルは、必要に応じ部分改訂・追加を行っており(平成 19 年 7 月 11 日最終改訂)、各人に改訂ページを配布のうえ、配布した職員全員に対して、差替え実施確認を行っている。 また、平成 18 年度には、作業部会を立ち上げ、医療事故防止マニュアルの全面的な見直しを行っており、平成 19 年度には、医療事故防止マニュアルのポケット版を作成予定であり、医療事故防止マニュアル策定部会で内容を検討中である。 医療安全管理指針の項目は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none">1 医療安全管理に関する基本的な考え方2 医療安全管理部の設置3 医療安全管理のための委員会等4 医療安全管理のための職員研修5 医療事故報告等に基づく医療安全確保を目的とした改善方策6 医療事故等発生時の対応7 医療従事者と患者の間の情報の共有8 患者からの相談への対応9 その他	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年40回

・活動の主な内容：

医療事故防止対策委員会は、昭和59年度に設置され、平成11年度までに5回会議が開催された。

当該委員会で、事故防止の対策等を検討しているが、平成12年9月の委員改選時に、法医学講座の教授を新たに加えたほか、委員の数を8名から14名へ増加し、機能強化を図った。

平成14年6月から、毎月1回委員会を開催し、リスクマネージャー会議の結果やアクシデント報告を踏まえ、事故防止対策を審議している。

委員の任期満了に伴い、平成16年9月から衛生学講座の教授を加え、16名で審議を行っている。

また、平成12年5月に医療事故防止対策委員会の下部組織として、リスクマネージャー会議を設置した。

当該会議は、副病院長（業務担当）を委員長として、事務部長、各診療科及び各中央部門の副部長、各病棟の看護師長、検査部及び放射線部の技師長、大学事務局財務管理グループ参事及び附属病院事務部の各参事の計69名で構成されており、毎月開催している。

ここでは、インシデント事例の概要報告、評価・分析・改善方策の検討、標語の発表及びアクシデント事例の報告等を行っている。

さらに、平成16年5月に新たに「医療クオリティ審議委員会」が設置され、一定レベル以上の事例について、過失や因果関係の有無、事故防止策の審議を行っている。

このほか、平成16年11月より、毎月、各種医療安全に関する情報の周知確認のため、会議資料等を閲覧した際には、各自サインをし、その確認票を提出することとした。

（医療事故防止対策委員会 開催状況 平成18年度）

18年 4月12日	18年10月11日	
18年 5月10日	18年11月 1日	
18年 6月14日	18年11月 8日	
18年 7月12日	18年12月13日	
18年 8月 9日	19年 1月10日	
18年 9月13日	19年 2月14日	
	19年 3月14日	計13回

（リスクマネージャー会議 開催状況 平成18年度）

18年 4月12日	18年10月11日	
18年 5月10日	18年11月 8日	
18年 6月14日	18年12月13日	
18年 7月12日	19年 1月10日	
18年 8月 9日	19年 2月14日	
18年 9月13日	19年 3月14日	計12回

(医療クオリティ審議委員会 開催状況 平成18年度)

18年 4月 5日	18年10月24日
18年 4月25日	18年11月 8日
18年 5月16日	18年12月12日
18年 5月29日	19年 1月16日
18年 8月 2日	19年 2月19日
18年 8月 9日	19年 2月27日
18年 9月13日	19年 3月20日
18年10月 4日	計15回

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 年15回

・研修の主な内容：

安全管理研修会は、平成14年度2回、平成15年度3回、平成16年度2回、平成17年度10回、平成18年度15回実施している。

このほか、平成15年度の安全管理研修会から、研修会の出席者に参加シールを配布し、出席率の向上を図ることとした。

また、平成16年度から、研修会の欠席者に対して所属のリスクマネージャーが伝達講習を行い、内容確認のためのチェック票の提出を求め、所属内全員に周知徹底を図っている。

平成17年度から、講演をビデオ録画し貸出しするなど、各所属内で医療安全に関する情報の更なる周知徹底を図ることとした。

名称	開催年月日	参加者	内容
安全管理・感染管理初任者研修会	18年4月25日	新規採用者 及び転入者 計133名	安全管理・感染管理初任者研修会 「医療事故発生時の対応」 「医療事故防止マニュアルについて」 「インシデントシステムについて」 「院内感染対策マニュアルについて」
安全管理研修会	18年5月23日	医師 計114名	CVカテーテル挿入インストラクター研修 「CVカテーテル挿入時の緊張性気胸の診断と対応」
安全管理研修会	18年6月23日	全職種 計928名	安全管理・感染管理研修会 <ビデオ放映> 「実例に学ぶ医療事故 手術」 押田茂實 監修 「処置別感染防止対策」 賀来満夫 監修 <講義> 「抗生剤の適正使用について」

安全管理研修会	18年6月28日	医療職 計143名	人工呼吸器保守点検マニュアルについて 集中治療部 副部長 島田二郎
安全管理研修会	18年9月22日	全職種 計933名	心臓血管診療に関する安全管理 「クオリティ・マネジメント活動」 自治医科大学附属大宮医療センター 教授 安達秀雄
安全管理・感染 管理研修会	18年11月15日	転入者 計28名	「医療事故発生時の対応」 「医療事故防止マニュアルについて」 「インシデントシステムについて」 「院内感染対策マニュアルについて」
安全管理研修会	18年12月1日 (録画放映) 19年3月19日 3月22日	全職種 計884名	「ヒューマンエラーの心理学」 東京海上メディカルサービス株式会社 主任研究員 恩田清美
安全管理研修会	18年12月25日 (録画放映) 19年3月20日 3月23日	全職種 計639名	「電子カルテ使用上の倫理と規定について」 医療情報部 副部長 竹内 賢 「当院におけるカルテ運用上の問題事例と刑 法抵触の危険性について」 安全管理部長 橋本重厚
安全管理研修会	19年1月26日	医療職 計656名	「医原性の抹消神経障害」 整形外科学講座 助教授 紺野慎一 「深部静脈血栓症の予防」 心臓血管外科学講座 助教授 佐戸川 弘之
安全管理研修会	19年2月1日	看護職 計201名	「インシデント・アクシデントの 分析手法(RCA分析)」 安全管理部GRM 川島隆子
安全管理研修会	19年2月16日	医療職 計278名	「人工呼吸の安全対策」 麻酔科学講座 中根正樹外

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	年12回																										
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) 無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>院内報告制度は平成12年6月14日から開始した。</p> <p>この報告制度は、医療事故(アクシデント)とインシデントを分けており、報告ルートや報告の様式も別々に定めている。</p> <p>インシデント報告の様式については、厚生労働省の医療安全対策ネットワーク整備事業への参加に伴い、報告様式を改正し、平成13年11月1日から使用している。</p> <p>報告されたインシデント事例は、平成12年12月にリスクマネージャー会議に設置した「インシデント評価部会」において内容の分析及び対策の立案を行っており、毎月のリスクマネージャー会議の中で、「インシデント情報」として発表・配布している。</p> <p>なお、平成13年9月からは、「インシデント評価部会」の中で「患者の安全を守るための標語」を決定し、約1か月の標語としている。</p> <p>また、平成15年8月から、事故報告を影響レベルごとに分類し、影響レベルが一定以上のものについては「医療クオリティ審議依頼書」を提出することとした。</p> <p>さらに、平成15年10月から、患者さんの確認のポスターの掲示とリスクマネジメントニュースの発行を行っている。</p> <p>このほか、インシデント事例の報告を簡便にすると同時に、事故防止策の立案を早急に行うために、「インシデントレポートシステム」を導入し、平成16年3月1日から運用を開始した。</p> <p>(インシデント評価部会 開催状況 平成18年度)</p> <table border="1" data-bbox="175 1198 1396 1825"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>担当リスクマネージャー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18年 4月19日</td> <td>第一外科・薬剤部・心身医療科・10階西病棟・6階東病棟</td> </tr> <tr> <td>5月17日</td> <td>整形外科・心臓血管外科・小児科・5階西病棟・9階西病棟</td> </tr> <tr> <td>6月16日</td> <td>第一内科・形成外科・医療情報部・集中治療部・7階西病棟</td> </tr> <tr> <td>7月18日</td> <td>第二内科・検査部技師長・眼科・看護部副部長・8階西病棟</td> </tr> <tr> <td>8月16日</td> <td>第三内科・総合周産期母子医療センター・救急科・8階東病棟・5階東病棟</td> </tr> <tr> <td>9月19日</td> <td>救急科・検査部・泌尿器科・総合周産期母子医療センター・手術部</td> </tr> <tr> <td>10月13日</td> <td>呼吸器科・輸血部・病理部・看護部副部長・9階東病棟</td> </tr> <tr> <td>11月16日</td> <td>手術部・皮膚科・神経内科・3階西病棟・10階東病棟</td> </tr> <tr> <td>12月20日</td> <td>麻酔科・第二外科・第一内科・7階東病棟・6階西病棟</td> </tr> <tr> <td>19年 1月18日</td> <td>脳神経外科・放射線部技師長・耳鼻咽喉科・心身医療科病棟・4階西病棟</td> </tr> <tr> <td>2月21日</td> <td>第一外科・歯科口腔外科・薬剤部・外来総合フロア・2階北病棟</td> </tr> <tr> <td>3月19日</td> <td>小児科・総合周産期母子医療センター・医療情報(病病・病診)・7階西病棟・8階西病棟</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">計12回</p>		開催日	担当リスクマネージャー	18年 4月19日	第一外科・薬剤部・心身医療科・10階西病棟・6階東病棟	5月17日	整形外科・心臓血管外科・小児科・5階西病棟・9階西病棟	6月16日	第一内科・形成外科・医療情報部・集中治療部・7階西病棟	7月18日	第二内科・検査部技師長・眼科・看護部副部長・8階西病棟	8月16日	第三内科・総合周産期母子医療センター・救急科・8階東病棟・5階東病棟	9月19日	救急科・検査部・泌尿器科・総合周産期母子医療センター・手術部	10月13日	呼吸器科・輸血部・病理部・看護部副部長・9階東病棟	11月16日	手術部・皮膚科・神経内科・3階西病棟・10階東病棟	12月20日	麻酔科・第二外科・第一内科・7階東病棟・6階西病棟	19年 1月18日	脳神経外科・放射線部技師長・耳鼻咽喉科・心身医療科病棟・4階西病棟	2月21日	第一外科・歯科口腔外科・薬剤部・外来総合フロア・2階北病棟	3月19日	小児科・総合周産期母子医療センター・医療情報(病病・病診)・7階西病棟・8階西病棟
開催日	担当リスクマネージャー																										
18年 4月19日	第一外科・薬剤部・心身医療科・10階西病棟・6階東病棟																										
5月17日	整形外科・心臓血管外科・小児科・5階西病棟・9階西病棟																										
6月16日	第一内科・形成外科・医療情報部・集中治療部・7階西病棟																										
7月18日	第二内科・検査部技師長・眼科・看護部副部長・8階西病棟																										
8月16日	第三内科・総合周産期母子医療センター・救急科・8階東病棟・5階東病棟																										
9月19日	救急科・検査部・泌尿器科・総合周産期母子医療センター・手術部																										
10月13日	呼吸器科・輸血部・病理部・看護部副部長・9階東病棟																										
11月16日	手術部・皮膚科・神経内科・3階西病棟・10階東病棟																										
12月20日	麻酔科・第二外科・第一内科・7階東病棟・6階西病棟																										
19年 1月18日	脳神経外科・放射線部技師長・耳鼻咽喉科・心身医療科病棟・4階西病棟																										
2月21日	第一外科・歯科口腔外科・薬剤部・外来総合フロア・2階北病棟																										
3月19日	小児科・総合周産期母子医療センター・医療情報(病病・病診)・7階西病棟・8階西病棟																										